

令和 2 年度

事業報告

令和 2 年 4 月 1 日から

令和 3 年 3 月 31 日まで

公益財団法人日本習字教育財団

目 次

(令和2年度事業報告)

一. 書道の通信教育及び実習指導	1
1. 通信教育	1
2. 実習指導	3
3. 学習希望者並びに継続学習者の支援	4
4. 書道用具の頒布	6
5. 国際交流	7
6. ホームページの運用	7
7. 習字の日	8
8. 展覧会の後援及び書道展の支援	8
9. 文化講演会の開催	9
10. 原田観峰生誕110年記念事業	9
二. 書道に関する展覧会の開催	9
1. 書道展の開催	9
2. 席書大会の開催	11
三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行	11
四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開	12
1. 書道文化に関する調査研究	12
2. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開	13
3. 教育・文化施設の運営	14
五. 書道に関する教育・研究機関への助成	15
六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業	15

一. 書道の通信教育及び実習指導

1. 通信教育

(1) 教材

各コースそれぞれ教材及び教師用指導書「教師月報」を配布した。通信教育会員向け機関紙「日本習字だより」と「たのしい習字」を毎月発行した。



(2) 学習方法

受講申込みの後、教材配本→学習後、課題提出→認定・添削、質問への回答→返送を1か月の学習サイクルとして行った。臨書部の添削については希望者のみ行った。また書写技能基礎講座、書道臨書講座については最終課題提出時に修了試験を行った。



(3) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	日本習字幼児部	1 2か月
2	日本習字小学1年	1 2か月
3	日本習字小学2年	1 2か月
4	日本習字小学3年	1 2か月
5	日本習字小学4年	1 2か月
6	日本習字小学5年	1 2か月
7	日本習字小学6年	1 2か月
8	日本習字中学1年	1 2か月
9	日本習字中学2・3年	1 2か月
10	日本習字漢字部	1 2か月
11	日本習字かな部	1 2か月
12	日本習字ペン部	1 2か月

13	実用書道くらしの書	12か月
14	日本習字墨画部	12か月
15	日本習字臨書部	12か月
16	書写技能基礎講座〔楷書編〕(文部科学省認定)	6か月
17	書写技能基礎講座〔行書編〕(文部科学省認定)	6か月
18	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5か月
19	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4～12か月
20	書道臨書講座【隷書】	3～6か月

(4) 日本習字模範揮毫DVDを頒布した。日本習字臨書部模範揮毫DVD(付録:解説付拡大手本・条幅)を頒布した。

「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本22」、「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本23」を頒布した。

(5) 新入会者を対象とした教材「入門編(生徒手本課題集)」「入門編(成人手本課題集)」、学習指導書を発行し認定添削を行った。

(6) 資格認定

ア. 段級位の認定

(ア) 会員の課題出品に対して各コースそれぞれの基準に従って審査し、段級位を認定した。

(イ) 漢字部昇段試験を実施した。

受験有資格者に対し、昇段試験を実施した。(7月)

(ウ) 臨書部昇段試験を実施した。

初段～五段(5月・9月・令和3年1月)

六段位(7月)

七段位(7月)

(エ) 生徒部八段位昇段試験を実施した。(7月・11月・令和3年3月)

イ. 「くらしの書」実力の認定

希望者に対し、実力認定試験を実施した。(4月)

(7) 認定証の発行

ア. 所定の段級位(墨画部は伝位)合格者に対し、本人の申請により段級位等認定証を発行した。

イ. 「くらしの書」実力認定試験の合格者に対し、本人の申請により認定証を発行した。



(8) 免許状の発行

免許状取得資格者に対し、本人の申請により免許状を発行した。



(9) 合格之証の発行

ア. 漢字部の六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。

イ. 臨書部の六段位、七段位の合格者に対し、本人の申請により合格之証を発行した。

(10) 雅号之証の発行

雅号を希望する者に対し、雅号之証を発行した。

(11) 表彰

通信教育受講者の中から、特に成績が優秀な者を第71回文部科学省認定社会通信教育修了者表彰に推薦し表彰された（主催：文部科学省、一般財団法人社会通信教育協会）。4月24日に予定されていた表彰式は、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

書写技能基礎講座 [楷書編] 課程1人

書写技能基礎講座 [行書編] 課程1人

2. 実習指導





研修施設及び全国各地域において実習指導を行った。

なお一部は、新型コロナの影響により各地・各研修所講習会を中止した。

- (1) 東京研修所 通年コース（漢字部講座、条幅講座）ほか
- (2) 伊都の里研修所 通年コース（専攻科、かな専科、日曜条幅教室）ほか
（伊都の里研修所は令和3年度より日本習字ビルに移転し、福岡研修所として開所）
- (3) 沖縄研修所 通年コース（漢字部講座、条幅講座）ほか
- (4) 各地講習会 全国各地で実習指導を行った。

3. 学習希望者並びに継続学習者の支援

書道学習の機会拡大や継続学習の支援を目的に普及企画を実施した。

(1) 「無料体験習字教室 DX」

習字体験学習希望者を対象とした無料指導イベントを開催する教室に、所定の案内チラシの進呈や新聞折り込み料補助、会場賃借料補助等の運営支援を行った。（2月～8月）



(2) 「お習字教室へ行こうキャンペーン」

企画参加教室におけるキャンペーン期間内の通信教育入会者に対し、習字用具進呈等を行った。（1月～9月）

(3) 「中学部受講促進」

小学6年生の中学進学時期に、「行書」の先行学習（お試し出品）機会の提供や、中学部継続受講申込特典等の学習支援を行った。



(4) 新型コロナへの対応

教室休講、生徒募集の停止など運営に大きな影響を受けた全国の教室に対して、コロナ禍での教室運営、活動再開に寄り添う支援・対応を行った。

ア. 指導者へ激励メッセージと各種対応についての案内を送付（4月）

(ア) 作品受付期間の延長

(イ) 自宅学習支援として模範揮毫ダイジェスト動画をホームページに公開

(ウ) 各種手続きの特別対応(手本の変更・取り消し等)

イ. 「生徒募集促進再スタート企画」のご案内を送付（5月）

(ア) 無料体験習字教室の開催支援

(イ) お習字教室へ行こうキャンペーン支援教室の拡大

(ウ) 教室再開お知らせハガキの提供

ウ. 新聞広告掲載とポスターを全支部に配布（6月）

(ア) “花丸と笑顔がいっぱい、習字教室ができること”の新聞全面広告を西日本新聞と北海道新聞に掲載

(イ) 同じデザインのポスター（A2）を送付



エ. 「習字教室運営のためのガイドライン」送付（7月）

オ. 「お習字教室へ行こう！キャンペーン」参加教室への特別支援を案内（8月）

キャンペーン終了後の新入会を後押しするため習字セットを進呈

カ. 「コロナ禍での教室運営アイデア集」を全教室に配布（10月）

コロナ禍における各教室の取り組み事例を紹介



(5) 「無料体験習字教室」

新型コロナの影響により、4～5月に十分な生徒募集活動ができなかった教室へ向けて生徒募集チラシや体験参加者用教材の進呈等無料体験教室開催の支援を行った。(6月～10月)

(6) 教室イベント「お友だちを誘ってカレンダーを作ろう」を実施

生徒会員が友達を誘って教室で一緒にカレンダーを作るイベントを推進。教室で学ぶ楽しさや喜びを体感してもらい受講を促進した。(10月～12月)



4. 書道用具の頒布

会員に対し、書道の技能向上を図る上で最適な書道用具等を選定・推奨し頒布した。書道用具等は「選定品」「推奨品」「頒布会品」に区分しそれぞれ目的に応じて提供した。



オンラインショップ

(1) 選定品の頒布

書道技能向上を目的とした通信教育各コースの学習において、課題の履修

のために欠くことのできない書道用具（筆・紙・墨・硯等）及び硬筆用具（鉛筆・ペン・用紙等）を頒布した。

(2) 推奨品の頒布

選定品以外に会員からの斡旋要望または書道作品制作及び書道学習の履修に必要となる用具を頒布した。

(3) 頒布会品の頒布

特別頒布会を実施し、文化祭や教室での作品展、イベント向けの書道用具・展示用具などの頒布会品を期間限定で斡旋した。また春の特別頒布会では教室支援品、文房具等の頒布を行った。

ア. 「たなばた特別頒布会」 5月～7月

イ. 「かきぞめ特別頒布会」 10月～12月

ウ. 「春の特別頒布会」 令和3年2月～3月

5. 国際交流

公益財団法人京都市国際交流協会とのコラボ事業として、京都市近郊在住の留学生向けに書道体験ワークショップの開催を予定していたが、新型コロナの影響により中止した。

6. ホームページの運用

(1) 日本習字ホームページ

各ページの更新を行い、SNSや日本習字公式動画チャンネルを活用して活動やイベント等の告知、記事発信を行った。また通信教育受講申込・教室検索等の利用促進やPRのためにインターネットディスプレイ広告を実施した。



(2) 支部長専用 Web サイトの新設・運営

支部長の利便性の強化を図り、円滑な教室運営をサポートしていくことを目的に、支部長専用 Web サイトを新設・運営を開始した。



チラシ申込画面

7. 習字の日

(1) 「習字の日」PRの実施

「日本習字」のPRと「習字の日」の認知度アップのため、書道パフォーマンス選手権大会へ協賛予定だったが、新型コロナの影響により大会が中止となり協賛を取りやめた。

(2) 「手紙をかこう」企画の実施

「習字の日」周知活動の一環として、会員向けに「手紙をかこう」企画を実施した。また同企画実施の意義や生徒・保護者への効果など、前回の具体的事例をレポートし機関紙等で広く紹介した。



8. 展覧会の後援及び書道展の支援

福岡矯正管区文芸コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援・審査等の支援をした。



9. 文化講演会の開催

「特別公開講座」（参加無料）を大阪において開催を予定していたが、新型コロナの影響により中止した。

10. 原田観峰生誕110年記念事業

創立者原田観峰の生誕110年を記念して、「手本の変遷」をテーマに筆跡を辿る展示を第11回観梅展地区展会場で行った。その他、戦時中に原田観峰が揮毫した石碑の採拓（鹿児島県志布志市）、生前の原田観峰ゆかりの方へのインタビュー等を実施した。



二. 書道に関する展覧会の開催

1. 書道展の開催

(1) 第11回観梅展の開催

成人会員・高校生及び特待生会員を対象に作品を募集した。



ア. 募集方法 指導者・会員に募集要項などを配布し、機関紙「日本習字だより」とホームページに開催告知を掲載した。

イ. 募集期間 8月1日～9月17日

ウ. 応募総数 2,997点

エ. 審査 観梅展審査委員会

オ. 審査結果 観梅大賞30点他各賞

カ. 作品発表

入賞作品（秀作賞以上）を対象に、地区展覧会を6会場で開催した

(いずれも令和3年)。

また機関紙とホームページに観梅大賞作品を掲載発表した。

開催日	展名	会場
2月 7日	沖縄展	沖縄書道会館
2月14日	京都展	京都市勧業館
2月21日	広島展	広島県立広島産業会館
2月28日	福岡展	福岡ファッションビル
3月 7日	東京展	国際ファッションセンター
3月28日	札幌展	札幌市民ギャラリー

(2) 第8回公募日本習字硬筆展の開催

硬筆学習への興味と意欲を喚起することを目的に広く作品を募集した。

- ア. 募集方法 書塾及び書道関係者などに募集要項を配布し、開催告知を小、中高生向け一般紙と機関紙、ホームページなどに掲載した。
- イ. 後援 文化庁、全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、全国連合小学校長会、朝日中高生新聞、朝日小学生新聞、京都府、福岡県、その他報道機関86社
- ウ. 募集期間 8月1日～9月17日
- エ. 応募総数 58,679点
- オ. 審査 日本習字硬筆展審査委員会
- カ. 審査結果 大賞12点他各賞
- キ. 作品発表
小、中高生向け一般紙上に対象学年の特別賞受賞作品・受賞者氏名を、また機関紙とホームページに大賞受賞作品・受賞者氏名等を掲載した。大賞を含む特別賞受賞作品・受賞者氏名及び入賞者氏名を印刷物として作成し応募者(団体)に配布した。
- ケ. 東日本大震災被災地への寄附
震災復興支援の一環として出品料の一部を、「いわての学び希望基金」(岩手県)、「東日本大震災みやぎこども育英基金」(宮城県)、「東日本大震災ふくしまこども寄附金」(福島県)に寄附した。

2. 席書大会の開催

日本習字全国席書大会に代わる大会として、日本習字オンライン書き初め大会を開催した。会員を対象に募集し、Z o o m（ビデオ会議システム）で大会本部と教室や自宅などを繋ぎ開催した。



- (1) 募集方法 指導者・会員に募集要項などを配布し、機関紙に開催告知を掲載した。
- (2) 後援 福岡県教育委員会 報道機関9社
- (3) 募集期間 11月2日～12月22日
- (4) 開催日 令和3年1月17日
- (5) 大会本部 福岡市内
- (6) 作品発表 参加者へは各々のSNSで作品を披露することを呼びかけ、後日、開催の様様を日本習字公式動画チャンネルで配信した。

三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行

補助教材として出版物を発行した。主な出版物は次の通り。

- (1) 漢字部昇段試験受験用教材として「日本習字漢字部 昇段試験受験ガイド 別冊過去の試験問題付き（令和2年度実施）」を発行した。



- (2) 幼児・児童向け教材として「はじめてのひらがな」、「だいすき！ひらがな」、「ひらがな練習帳1（五十音）」、「ひらがな練習帳2（ことば）」、「カタカナ練習帳」を発行した。



- (3) 漢字学習教材として日本習字漢字練習帳「1年生のかん字」を発行した
(その他2年生～6年生まで)。



四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開

1. 書道文化に関する調査研究

博物館観峰館の収蔵資料の中から中国書画をはじめ、日本の教科書など文化教育に関する資料を分類整理し調査研究を行った。



(1) 関西中国書画コレクション研究会への参加

近代中国書画に関して他の博物館及び大学等研究機関との連携による共同研究に参加した。加盟館9館：京都国立博物館ほか

(2) 収蔵資料のデータベース化

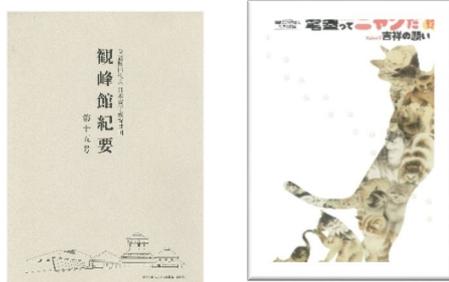
収蔵資料の内容・作者・法量・制作年などをデータベース化した。



(3) 収蔵資料の修復を行い展示した。

(4) 『観峰館紀要』第15号を刊行した。

- (5) 開館25周年記念秋季企画展「^{もってつ}耄耋ってニャンだ!?!—吉祥の願い—」の冊子を制作し発行した。



2. 世界各国の文字資料その他文化資料の収集及びその展示公開

新型コロナの影響により、一部企画展・イベントは延期・中止した。

(1) 常設展示（主な展示資料）

- ア. 近代中国の書画、中国の文字資料、復元石碑
- イ. 「避暑山荘」・「三希堂」の復元資料
- ウ. 原田観峰書作品

(2) 企画展示を下記のとおり実施した。

	会 期	名 称
1	4月11日～6月7日 (緊急事態宣言により中止した)	春季企画展「対聯飾り—おもてなしの言葉—」
2	6月20日～8月30日	夏季企画展「涼をもとめて—中国絵画で納涼—」
3	9月19日～11月23日	開館25周年記念秋季企画展「耄耋ってニャンだ!?!—吉祥の願い—」
4	令和3年2月6日～3月21日	冬季企画展「生誕110年記念 原田観峰の書」
5	令和3年2月6日～3月21日	五個荘地区共催展「商家に伝わるひな人形めぐり」



(3) 館外展示

ア. 支部長会作品展「日高書友会」(北海道)へは、資料貸出とオンラインによる作品解説を実施した。「空知支部長会」(北海道)への資料貸出と作品解説は緊急事態宣言に伴い中止した。

イ. 安田女子大学の「書道実地研究」に代わる資料貸出と作品解説(11月18日・25日)を行った。

3. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の施設運営並びに館内で各種体験学習教室、各種イベントを開催した。

(1) 概要

- ア. 開館日 6月2日～11月23日
令和3年2月6日～3月21日
- イ. 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
緊急事態宣言に伴う休館(4月11日～6月7日)
展示替え期間(8月31日～9月18日ほか)
調査・年末年始休館(11月24日～令和3年2月5日)
- ウ. 開館日数 236日
- エ. 入館料 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生無料
(団体割引、その他各種入館割引を実施)
- オ. 入館無料日 関西文化の日ほか、年間計4日

(2) 書道に関する体験学習教室の開催

瓦当拓本教室、石碑採拓教室などを適宜開催した。



(3) 各種イベントの開催

- ア. ギャラリートーク&ミニコンサート 1回
- イ. ギャラリートーク 2回
- ウ. 「夏休み子ども博物館」クイズラリー
- エ. 土曜講座 6回※その他2回は緊急事態宣言のため中止

オ. 第25回観峰館かきぞめ大会 出品方式

(4) 博物館学芸員実習生の受け入れ

新型コロナの影響により募集しなかった。

(5) 地域及び教育機関と連携した学習・研修機会の提供

淡海書道文化専門学校 石碑採拓実習を行った。

(6) 展示資料解説

各種団体・グループ来館者に対し館内の案内、資料解説を行った。

五. 書道に関する教育・研究機関への助成

「公募 公益財団法人日本習字教育財団 学術研究助成」の第7回助成分の
成果論文集制作と、第8回助成の募集を行った。(助成対象2件)

六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業

「書字教育に資する幼児教材開発のための基礎的研究」をテーマに、就学前
の幼児を対象とした幼児教育に必要な基礎的データ等の調査研究を、松本
仁志氏(広島大学教授)を代表とする3人の研究者に委託し、当該分野の
先行研究等の整理・分析を行った。研究期間は令和4年3月まで。